



磯谷 正勝 さん  
(北海道スカイダイビング倶楽部代表・  
タンデムマスター)

美唄スカイパーク（農道空港）は夏の間（4月下旬～11月初旬）毎週日曜日スカイダイビングの体験客でにぎわう。体験はタンデムジャンプという方式。資格をもったベテランジャンパー（タンデムマスターと呼ぶ）とハーネス（落下傘を背負う衣装）でつながって一緒に降下してくる。初めての人でも15分の練習で安全に簡単に体験できる。

体験会は北海道スカイダイビング倶楽部<sup>\*</sup>がやっていて、倶楽部の代表磯谷さんがタンデムマスターである。自衛隊の空挺部隊でパラシュートの教官を務めたベテランである。

美唄では8,000フィート(2,400m)まで軽飛行機で上昇し降下する。飛行機のパイロットはペーターさん（これはfirst name（名前）で、last name（苗字）はステーガーさん）。ドイツ出身で北海道大学で光の研究をしてきた理学博士でもある。飛行機は倶楽部運航する軽飛行機でアメリカ製。短い滑走距離で離陸し、すばやく上昇できる優れたものだ。体験者とタンデムマスターが一組ずつ搭乗する。体験者には、「空の極上サービスを味わってもらうためにひとりずつ飛びます」と説明する。



ペーター・ステーガー さん  
(Dr. Peter Steeger)  
(北海道スカイダイビング倶楽部パイ  
ロット)

クローズアップ①

## Try skydiving! ようこそ美唄スカイパークへ

小椋 護 (北海道スカイダイビング倶楽部広報、アルゴ地域総研代表)

### 自由落下30秒、時速200kmの世界を体感してほしい

スカイダイビングは恐怖と戦うスポーツでも、スリルを味わうスポーツでもない。万が一メインの落下傘が開かなくても予備の落下傘を開ける。タンデムマスターが気を失っても、装具が地上から一定の低高度と時速を検知して自動的に落下傘が開く仕組みになっている。もちろん、事が起こると重大な結果をまねくため安全への細心の注意をはらう。

スリルがなければ何が面白いのか？ 答えは簡単だ。あなたは乗り物や道具を使わないで時速200kmの体験ができますか。スカイダイビングは人間が体ひとつで時速200km（自由落下の最終到達速度）というものすごいスピードを体験できる唯一のスポーツなのだ。この状態を30秒間味わうと、多く的人是は感激で涙が出てくる。そうでなくても、強い風圧で涙は出るから心配ない。ものすごいスピードで降下しているのに、本人は飛んでいる気分になる。この浮遊感を体験してみん

なハイになる。「何でもできる気分になった」という言葉を残してスカイパークを後にする。

開傘（「パラシュートを開く」こと）後は落下傘を操作させてくれる。旋回したり、停止することもできる。開傘してから着地までの4分近く、タンデムマスターの磯谷は、体験者を喜ばす手を次々と繰り出す。彼氏や彼女、家族にメッセージを叫ぶよう体験者に促す。上司や部下、妻や夫への不満をぶつけてもいい。思いっきり憂さを晴らす絶好の機会だ。北海道の空はあなたの言葉を全部呑み込んでくれる。意外とこれまで不満を吐き出すような人はいない。万が一聞こえやしないかと恐れているのだろうか。みんな地球の真ん中で「愛しているよ！」と叫ぶ。スカイダイビングをするとみんないい人になるのだ。磯谷は地球が近づいてくるとターゲットシート（着地ポイント）へどのくらい正確に着地できるか、当てっこしたりして遊ばせてくれる。明日はどんな手で体験者を楽しませてくれるのだろうか。

<sup>\*</sup> 北海道スカイダイビング倶楽部（代表磯谷正勝）1998年創設、愛称は「空楽舞落下傘（くらぶらつかさん）」。これまで、愛別、摩周湖、滝川、ニセコなどで活動し、5年前からステーガーさんの誘いによって、美唄スカイパークで活動している。

## 滝川に負けないスカイパークに

スカイパークと言えば滝川だ。40年近い歴史と実績をもった日本最高水準のグライダー基地だ。石狩川の河川敷に広い滑走路と遊具広場が緑まぶしく広がっている。体験観光や訓練グライダーが上空狭しと飛び交う。現役のグライダーが格納される建物は動態博物館として機能し、隣接する喫茶コーナーからはお茶しながらグライダーを眺められる。スカイダイビング体験の後にはグライダー体験もお薦めしたい。スカイダイビングとグライダーはお互いがまったく異なった面白さを持っている。美唄、滝川の両スカイパークは距離で22km、至近にある。2つでひとつのBIGなスカイパークに変貌することを予感させる。

美唄も滝川に負けてはいない、心意気では…。美唄ではスカイダイビング以外でもパラグライダー体験やマイクロライトプレーンが楽しめる。軽飛行機のパイロット養成も行っている。美唄を訪問すると空にかかわるいろんな人と交流できるのが楽しい。サイクリングネットワークの立ち寄り拠点にもなっている。自転車を置き自動販売機で買ったジュースを飲みながら空を眺める。たまに空から「愛しているよ！」という叫び声が聞こえたりすると、自分に言われている気分になる。とてもいい気分だ。

美唄スカイパークは農道空港（正式名称は「農道離着陸場」）として整備された。美唄市役所が所有し管理運営は民間委託。受託している会社「ピートエアインコーポレーション」の代表がペーターさんだ。

ペーターさんは超人である。ドイツ人のくせに日本

人より日本語が上手い。しかも、市役所が民間委託することがより地域振興に寄与することを理解するまで何年間もねばり強く折衝してきた。理を貫く精神は憧れでもある。美唄農道空港を美唄スカイパークと呼び始めたのもペーターさんだ。見学客が訪れるとさりげなく倉庫から椅子を出してきて勧める。いろいろな人が集まって楽しめる場所にしたい。ペーターさんの口癖だ。

小椋は北海道スカイダイビング倶楽部で広報の肩書きをもらって体験者のビデオを編集している。事務所で体験者に編集ビデオを見せてイメージを膨らませてもらう。最後にエンディング



小椋 護

グが流れる。磯谷が画面いっぱい叫ぶ。「次に飛ぶのはあなたです。美唄農道空港に来てください」その横で、ペーターが渋い顔をしてつぶやいた。「農道空港じゃないよ、スカイパークだよ！」

## それでもわたしは「飛ぶのが怖い」人のために

ここまで読んでくださると大体の人は、わたしも飛んでみたいと思う。もう、飛ぶのが怖いとは言わせない。万が一、飛び出し直前にそれでもやっぱり怖い…と思っても大丈夫です。飛行機から飛び出るのを中止してくれます。これまで体験者数百名、いまだかつて「怖いからやめて」と言った人はいません。3万5千円の体験料金をふいにするのは誰でも惜しいのだ。



Try skydiving! のどかな田園のまんなかには美唄スカイパークがある。

\* 北海道スカイダイビング倶楽部  
ホームページ <http://skydive.co.jp/index.html>